

よ。ポイントです、市長。

今対馬の、市長も分かっていると思いますよ、どう考えているか、市民が。昨日ですね、市長、私も帰って所信表明の挨拶をずっと見たんですよ。そして気づいたことがあって、市長は、もう最後になりますけども、人口減少、人口減少という言葉を出して、9回も言っているんですよ、所信表明の中で。ということは、市長もやはりこの人口減少というのは一番大事だということは分かっていると思います。

ですから、今後4年間、副市長二人体制となりましたので、人口減少は止まりませんが歯止めがかかるような政策を打っていただきたい。そして大胆な企業誘致、そして対馬の宝である子どもたちへの支援、物価高騰対策、まずこの4つでいいんです。そんないっぱい言っても無理ですよ。まずこの4つの柱でしっかりやっていって、対馬市を動かしていただきたいと思います。市長、最後に一言お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 最後のほうのその4つのことは、そのことは私自身も肝に銘じて一生懸命取り組んでまいりたいと思いますけども、議員の今回のこの転県の動き、これを市民のほうに聞いてみてはどうかということについては、私はこのことは今冒頭申し上げましたように、これを市民の間に広げますと、また新たに混乱を起こすだけだということで考えてはおりません。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） これは混乱は私は起きないと思います、意見ですから。市長、これは分断は起きませんよ、意見ですから。これを考えてまだ議員の皆様も、それをまたどうするかということをやっていけば、私はそれが市民の意見でございます、意見、よろしいでしょうか。そのことを最後の言葉にして、私の一般質問は終わりたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を2時10分からといたします。

午後1時53分休憩

午後2時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 初めに、今春には厳原港への国際航路再就航により、週末には多くの観光客で活気と活力ある島へと復活を遂げている反面、一部の観光地ではたばこの吸い殻の

ポイ捨てなどの迷惑行為が報道されていましたが、最近になって沈静化したとのことで安堵しているところでございます。

さて、本市にとっては、国内外からの継続した観光客再訪に向けた受入れが課題であり、特に観光地によっては未整備区域が存在しています。このことを踏まえ、本日の質問の1点目は、厳原南部地域の観光地整備についてお尋ねいたします。

上見坂公園から清水山城跡までの観光周遊ルートの創設及び整備としまして、本市の観光地にあります上見坂公園展望所から対馬空港を眼下に、浅茅湾の壮大な景色は癒やしの空間と言えます。しかしながら、ルート到着までの鬱蒼とした樹木などに覆われ、昼間帯にライト点灯による走行標識もあり、決して観光周遊ルートにふさわしくないように感じています。

上見坂公園から厳原方面に向かうルートから、国有林管轄ですが清水山城跡への観光周遊コースとして、自然環境での観光地としての新たにトレッキングコース整備の検討はできないでしょうか、市長のお考えについてお尋ねをいたします。

次に、豆酩崎公園から椎根石屋根までの周遊ルートについてですが、豆酩地区では4年ぶりに赤米の田植え復活との明るい話題がありました。さらに豆酩地域には美女塚、奥地に進めば壮大な日本海の一部を臨める観光名所があり、豆酩崎公園から椎根石屋根倉庫までの南西部ルート整備が望まれています。豆酩崎公園までの進入ルートを含め、厳原から豆酩方面までの主要地方道厳原豆酩美津島線の整備計画を含めて取組と進め方についてお尋ねいたします。

過去には、上見坂公園へのロープウエー構想の質疑が行われましたが、厳原から、また小茂田方面から南部地域への観光名所間を大型バスで周遊できるよう、ある種の観光産業再生計画に向けた道路整備が必要ではないでしょうか。後ほど資料にて再質問させていただきますので、よろしく願いいたします。

次に、本市の介護保険料について、介護保険創設から保険料の現状と将来の支出推計についてお尋ねいたします。

介護保険制度は、将来の高齢化社会到来を見据え、27年前の1997年に社会全体で高齢者の介護を支えることを目的に介護保険法が成立し、3年後の2000年4月に施行されました。

介護保険法は、40歳から64歳までの適用は第2号被保険者、65歳以上は第1号被保険者に分類され、介護サービスの利用内容に応じて事業者は県内の広域連合に保険請求が行われています。

2000年4月施行から、3年前の改正における第1号被保険者及び第2号被保険者の保険料の本市の負担推移と将来の保険支出推移についてお尋ねいたします。

この後は、市長の答弁が終えた後、資料にて再質問いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 伊原議員の質問にお答えいたします。

初めに、厳原南部地域の観光地整備についてでございますが、本市の観光客数は令和5年で国内外を含め約24万人となり、コロナ前と比べ徐々に回復傾向であります。令和6年においては、厳原釜山間の航路が再開し、さらなる観光客の増加が予想されます。

議員御指摘のとおり、厳原市内から上見坂公園に通じる旧県道は、雑木により風光が良好ではなく、カーブが続くつづら折りの状態で風光を確保できる場所は限られております。

一方で上見坂公園は、本年4月19日から烏帽子岳展望所の道路工事に伴い、代替の展望所として利用度が増しております。景観の維持を図るため、過去に土地所有者の承諾を頂きながら、烏帽子岳展望所、万関展望所の雑木を伐採した経緯がございますので、旧県道からの上見坂公園の範囲において、風光の確保を図るよう伐採が必要な箇所の精査等をしていきたいと考えております。

次に、厳原市内から上見坂公園に向かう旧県道において、道中の林道から清水山城跡へ周遊するルートを含めた観光ルートの整備についてでございますが、国有林を活用したトレッキングルートの整備事例としまして、平成29年に有明山の活用に向けて管理運営協議会、有明山レクリエーションの森管理運営協議会といいます。これが組織され、長崎森林管理署と協定を締結し、コース設定及び案内板設置等の事業が進められてまいりましたが、有効な活用施策となるソフト事業の展開ができず、令和4年に管理運営協議会が解散した経緯がございます。

まずは——その前に、このことについては職員は踏査しておりますので、私も森林浴を兼ねて一度歩いてみたいと考えております。まずは再度、森林管理署との協議を進めていく必要があるかと思えます。

次に、豆酩崎公園から椎根石屋根倉庫群までの南西部におけるルート整備についてでございますが、観光面での周遊ルートの設定においては、ルート上にストーリー性を持った対馬でしか味わうことができないコンテンツづくりを基本としております。

議員御指摘のとおり、南西部ルートは観光名所が点在しております。この点在する観光名所をストーリー性のある一つのコンテンツとしてつくり上げることが、観光ルートの整備につながります。南西部ルートの魅力を掘り起こし、この魅力が観光客にどのように刺さるか、まずは観光関連事業者等の御意見を頂きながら進めてみたいと考えております。

次に、観光ルートに合わせての主要地方道厳原豆酩美津島線の道路整備についてでございますが、平成28年度に国県道路等整備促進特別委員会により取りまとめたいただきました要望事項に沿う形で、現在、尾浦入口から内山坂トンネルの区間を整備していただいているところでござ

います。

南部区域の未改良箇所の未着手区間につきましても、県と調整を図りながら早期に着手していただくよう、引き続き要望活動を進めてまいりたいと考えております。

また、豆駝崎公園までの市道につきましては、区間全体において地質等の風化により、路面・路肩等の状態が悪いことは認識しているところでありますが、特殊工法等による大規模な事業の検討を要するため、現段階においては、通行に支障がないよう補修等を行い、維持・管理に努めているところでございます。

次に、本市の介護保険料についてでございますが、高齢者の介護を社会全体で支える仕組みとして、介護保険制度が平成12年4月にスタートして令和6年度で25年目を迎えます。介護保険は、国や県、市が負担する公費と、40歳以上の被保険者一人一人が納める介護保険料を財源として運営されております。

令和6年度から令和8年度における介護給付費の財源内訳については、国が25%、県が12.5%、同じく市が12.5%の公費は50%、65歳以上の第1号被保険者の介護保険料は23%、40歳から64歳までの第2号被保険者の介護保険料は27%と国で定められております。

介護保険料の算定方法であります。40歳から64歳までの第2号被保険者の介護保険料は、加入している各種健康保険、国民健康保険など医療保険の算定方法により決められ、医療保険料の中に介護保険料分を含めて各医療保険者に納められます。

一方、65歳以上の第1号被保険者の介護保険料については、各市町において介護給付費を賄うよう算出した基準額を算定し、所得に応じて段階別に定めた保険料率を乗じることによって、介護保険料を決定します。

介護保険制度は、高齢者を社会全体で支える社会保障制度の一つとして定着していますが、一方で、人口に対する65歳以上の高齢者の割合であります高齢化率は年々上昇し、それに比例して、要支援・要介護認定者数と介護給付費の増加が進んだ結果、本市の介護保険料は制度開始当初において、基準額の月額3,420円でありましたが、高齢化率が35%を上回った第7期で6,300円、そして現在9期で6,500円となっております。

全国的に人口減少と少子高齢化が進行している状況でございますが、第9期の介護保険料を県内離島の市と比較いたしますと、五島市6,780円、壱岐市6,490円と同程度の負担となっております。

今後の介護保険料の推計でございますが、団塊の世代が75歳以上となる令和7年及び団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22年を見据えますと、全国平均を上回る高齢化が進む本市にとって、介護保険料の上昇は避けることはできないものと考えております。

第9期介護保険事業計画の中で、本市の介護保険料は、令和22年度に9,363円、全国平均は9,200円に達すると推測されております。本年度から、高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画では、基本理念として、「みんなでつくろう！いつまでも安心して健やかに暮らせる島」を掲げ、今後の少子高齢化の進行が予測される中、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で安心して生活していくためには、本市の様々な組織や団体等が連携を深めながら、地域包括ケアシステムのさらなる強化と地域共生社会の実現を目指して取組を推進していくことが重要であると考えております。

市民の誰もがより長く元気に活躍できるよう、介護予防自主グループの育成、介護予防教室の開催、健康講話の実施など、介護予防事業を通して健康寿命の延伸を図り、介護保険料の上昇を抑えることができるよう継続して取り組んでまいります。

長くなりましたが、以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 冒頭にも申し上げましたが、今から資料に基づいて御説明をさせていただきますと思います。

資料は、巖原中学校を過ぎて数分のところに、佐須坂トンネルの手前から左折して有明山方面に通じる入り口を示しております。県道44号から左手に入ったところでございます。

資料1―2でございますが、清水山城跡への進入口を示しています。先ほどの資料1から左折したすぐのところでございます。数十秒程度ですかね、上見坂公園は右に進みます。道路は旧県道でございましたけれども、県から移管されて現在は市道巖原若田線になっているとお聞きをしております。

この資料でございますけれども、有明山の進入口で国有林管理のためチェーン規制になっていきます。したがって、先ほど市長が少しトレッキングをしたいというお話でございましたけれども、入山ができるかちょっとまだ分かりません。チェーン規制のため、先ほど森林管理署ですか、こちらのほうとの協議が必要かと思っておりますので。

それから、有明山から巖原港を眺めた場合、巖原市内を含めたすばらしい景色が広がるのではないのでしょうか。このためには有明山の頂上に展望所設置が可能であればと感じてはいますが、市長その辺りは御見解何かございますでしょうか。有明山に登ってから展望所あたりの設置。巖原港、また巖原市内が真下に見えますので、その眺望を確認するため展望所の設置はいかがでしょうかという御質問です。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず初めに、ここにチェーンがしてありますけれども、このチェーンについては、職員のほうが森林管理署の話を聞くところによりますと、トレッキングにおいては、

このチェーンを越えてすることは、入山許可は問題ないということでございます。それと有明山のほうから下ってくるとこの眺望の関係ですけども、私も以前、有明山に、こちらの上見坂のほうから登りまして下ってきたわけでございますけども、確かに有明山自体は平べったい山で、なかなか眺望のきくところはなかったかなというふうに思っております。

下がってくるところに、ところどころ眺望が開ける箇所があったというふうに記憶しております。職員とも話す限り、なかなかその展望所としてする場所は少ないということで、清水山の一番上ですかね、第3というんでしょうか、あそこが場所としては適当ではないでしょうかというように、担当者からはそういう話を聞いております。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） これは上見坂公園近くでございます白嶽登山口。先ほどの有明山への進入入り口同様、国有林管理のためチェーン規制になっております。チェーン規制をトレックのために市民の方が自由に外して入山ということをおっしゃいましたけれども、その案内があまり私もちっと見に行きましたけど、そのあたりがないような気がしましたけど。（「外してじゃなくて、乗り越え」と呼ぶ者あり）乗り越え、あ、そうですか。いずれにしても、乗り越えてもちっと厳しいかなと思いますので、その辺りの標識か何かが自由に乗り越えて入山できますということを、どこかに掲示していただければよろしいんじゃないかと思いますので、やはりこのチェーン規制になっていますと、なかなか一般の方が乗り越えてまではどうかなと思いますので、その辺りまた今後協議を進めていただければなと思っております。

島内の国有林につきましては、常駐の営林署職員さんと地元の方によって委託管理が以前行われていましたが、現在どのような形になっておりますか。例えば先ほど入山をした場合に、いろんな弊害とか障害があったらいけませんので、その辺りの管理、管理面は今どのような形になっておりますか。もしお分かりになりましたらお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

写真のほうは白嶽入口かと思っておりますけども、国有林のほうの管理はまさに森林管理署のほうでやっておりますので、私が把握している管理においては直営でやられたり、業者さんに委託されたりということだろうと予想はしております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） すいません。営林署も民間事業者の営業拠点になっているということで、登山が容易にできるよう観光業のさらなる発展を考えますと、本市への無償譲渡はできないですかね。この辺り容易に入山できるように無償譲渡あたりの協議は今までされましたか、

それとも今後そういったお考えございますでしょうか。

このことが実現しますと、巖原、有明、上見坂、白嶽登山の新たなコースが考えられますので、その辺りの御見解をお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 担当のほうで、巖原の森林管理署のほうと話を聞いてきておりますが、無償譲渡はちょっと難しいような話でございますけども、ここを先ほども申しましたようにトレッキングで利用されることについては問題はないと。ただし、市の方が維持管理はしてくださいというようなお話でしたということでございます。

そういうことで、私も先ほど申しましたように、一回ここは歩いてみたいなという思いを持っているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。今少し、もうちょっと涼しいうちがよかったかも分かりませんね。暑くなるとちょっといろいろ大変でございますので。

資料でございますけれども、先日久々に登った上見坂公園展望所から見た風景です。対馬空港を眼下に浅茅湾の入り口がもう少し見えるはずですが、中央にそびえ立つ雑木が視界を遮っています。展望所にはお二方、島の方がちょうどいらっしゃいました。この雑木が伐採されればいいですねという話をして、それから下山したところでございます。

このような視界を遮らないよう、他の雑木同様、伐採などの何らかの措置が必要かと思いますが、先ほども烏帽子岳の雑木の伐採のお話もございましたように、今現状はこれです。こういう状況です。ちょうど対馬空港が正面に見えて、その真下には雞知の市内ですか、それが見えるはずなんです、こういった状況でございますので。

昨日のお話の中で、おもてなしの醸成ということで、持続可能な観光地づくりを4年間の課題として取組をしたいというお話でございました。こういったお話の中にもございました隠れた観光地がまだまだありますけれども、手を少しつけていただくと、もう少しきれいな観光地になるかと思っておりますので、このあたりは少し大変でしょうけど、一度見直しをしていただけないでしょうか、ぜひお願いしたいと思います。

それでは、2点目に進みます。資料につきましては、対馬市高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画、これを参考に作成をいたしました。2000年から2040年までの40年間の本市の高齢化比率の推移です。先ほども市長のほうもお話がございましたけれども、本市の高齢化率は年々上昇傾向にあります、若年層の転出などで分母となる人口が右肩下がりの構図ですので、高齢化比率は必然的に高くなっています。

まず、2000年の高齢化比率の実績値では22.8%、2020年では38.6%で、20年

間で15.8ポイント上昇をしています。2025年は第1次ベビーブームに誕生された団塊の世代が75歳を迎えることで、全国的にも高齢化比率が高まることになります。第1期の2000年の標準月額保険料は、市長もお話ございましたけれども3,420円でしたが、24年後の第9期では6,500円で第1期と比較しますと3,080円増となっております。

介護保険料につきましては、所得に応じて3,000円強から1万5,000円以上までで、年金受給から転引きされています。標準額、保険料額や介護サービスなどの見直しは、3年に1回のペースで行われていますので、3年後の2027年には第9回目の改正となり、介護保険に係る財源は支出増が懸念されます。

今後の高齢化率の上昇によって、介護保険料の財源支出増を含めて、どのような打開策を検討されていますか、またどのようなお考えでしょうか、御感想等お願いをいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 全国的な高齢化率の上昇によりまして、介護保険に係る財源支出が増えることは承知しておりますけども、介護保険を運用していくことは、国、県、そして市、町の重要な責務であるというふうに認識しております。

介護サービスと負担のバランスを取りながら、市民、誰もが対馬に住み続けることができるよう、責任を持って制度運用をしていかなければならないというふうに考えているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） この資料でございますけれども、介護保険制度の財源内訳、市長のほうもお話しされましたけれども、国、県、市町村で計50%、それから65歳以上の第1号被保険者は23%、40歳から64歳までの第2号被保険者で27%の支出負担となっております。

高齢化比率上昇によって、本市の公費負担、第1号及び第2号被保険者の負担がますます増えることが見込まれます。本市の65歳以上の第1号被保険者は1万817人、第2号被保険者は8,725人ですが、いずれも昨年4月1日の数値です。このことが今後、被保険者もそうですけれども、財源支出、これが少し負担になっていくのじゃないかなと。今後ですよ、今もそうでしょうけど。

特に40歳以上の方々、自分たちは何もまだ恩恵がないという思いがございます。これも医療費は当然恩恵があるかも分かりませんが、この介護負担、国の定めた保険料でございますので、これについて少し難色を示される方が多くいらっしゃいますので、この辺りはまた今後どういうふうに説明し納得していくのか、これが重要な課題じゃないかと思っております。

次に進みます。この資料でございますけど、11年前の2013年8月開催の厚生労働省所管の社会保険制度改革国民会議での報告書で、医療・介護サービス提供体制改革を抜粋したもので

ございます。

先ほど説明しましたが、この段階で来年2025年、昭和24年生まれの団塊の世代の方々が75歳を迎えますので、5人に1人が75歳以上、また3人に1人が65歳以上となり、高齢化が進むことによって医療・介護サービスが不十分と、これは11年前に提言をされております。

市長も医療・介護サービス提供について、ある程度は認識はされてあると思いますけれども、これからますます増えるであろう高齢化率によって頭を悩ませる状況になろうかと思っておりますので、このことは今後の施策、一番重要だと思っております。

今後のそういった取組について、当然、課内でいろいろ協議はされていると思いますが、介護福祉関連の担当者の重要な業務となりますので、このあたりはしっかりとまた今後取り組む必要があるのじやなかろうかと思えます。俵副市長もうなずいておりますけれども、そういうことですよね。

すいません。これは地域包括ケアシステム対馬版の構築ということで、「住み慣れた地域で長く暮らすために」、これがサブタイトルでございます。これは厚生労働省医療政策局の2014年3月に、全国医政関係主管課長会議の資料です。2014年に厚生労働省より住み慣れた地域で長く暮らすために、地域包括ケアシステムが構築され、対馬版に置き換えた資料でございます。

このシステムは、1988年に巖原町東里に新築、移転しました対馬いづはら病院、36年前に当時の伊藤院長より、医療、健康づくり、介護、福祉の一体化した拠点づくりを目指して、現在の地域医療包括ケアシステムの前進を提案されたところでございます。

さて、この第9期の包括ケアシステムの基礎資料として、2023年8月に、65歳以上の介護保険の認定を受けていない介護保険ニーズ対象者に対し、対馬市が地域包括ケアシステム認知度調査を実施いたしましたところ、約7割以上の方々が、このシステムの認知度に対して御回答がかなり低いというふうなことでございました。これは、担当課のほうが詳しい資料はお持ちだと思いますので、必要に応じて、また御対応していただけたと思います。

こういった中で、昨日の市長の所信表明で、地域包括ケアシステムの本格実施に触れられていますが、具体的にどのようなお考えでしょうか。昨日の所信表明の中で、地域包括ケアシステムの本格実施に触れておりましたが、具体的にどのようなお考えで進められるか回答をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 平成27年度より本市でもこの地域包括ケアシステム構築に取り組んでいるところでありまして、医療、介護、住まい、介護予防、生活支援が一体的に連携して提供される仕組みであるものというふうに承知をしているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ありがとうございます。医療も介護も福祉も本当に奥深いと思っておりますけれども、市長はまだ若干勉強不足のところがあるんじゃないかと思いますが、ですね。これからこの件につきましては、当然先ほど申しましたように担当課と十二分に協議されて、そしてどのような施策が必要か、どのように進めたほうがいいのか、大変厳しいですよ、難しい問題です、これいろいろと。特に奥の深い内容でございますので、医療も保険も福祉もこれの一体化、包括化したケアシステムも当然必要でございますので、これが先ほどの健康寿命、高齢者の健康寿命にいかにつなげるか、このことを十二分に今後も担当課のほうと協議を進められていかれればと思っております。

最後の資料です。この資料につきましては、市内圏域の圏域別の介護事業者等の実態でございます。お手元にも資料がございますけれども、このような状況背景から、市内の介護福祉の事業内容を分類しております。本年1月に策定されました対馬市高齢者福祉計画及び第9期介護保険事業計画から抜粋した資料でございます。市内での訪問介護をはじめとする居宅事業、地域密着型事業として通所介護事業、入所を必要とする介護施設を分類した内容です。

数値につきましては、市内各市の事業者数を北部圏域、中部圏域、南部圏域にそれぞれの事業箇所を示した資料です。中部圏域には、北部の鹿見、久原、女連地区が加わっています。

1の居宅事業でございますけれども、数値ゼロが北部が2か所、中部は7か所、南部はほとんど実施されております。右の2番目の上の地域密着型事業では南部で行われていますが、北部・中部圏域では資料のとおりです。その下の右の下の3の介護施設は中部はゼロ、介護医療院は3圏域ゼロとなっています。介護医療院ですが、介護療養型医療施設の廃止によって、翌年の2018年の第7期介護保険事業計画で新たに法定化された施設でございます。この施設は市内にはゼロでございます。介護医療施設での事業内容は、時間の関係で割愛させていただきます。

さて、このような介護事業展開を行う上で、介護職不足によって余儀なく事業休止に追い込まれている事業者は少なくありません。ここで市長に質問でございますけれども、介護職の離職防止のため、介護報酬処遇改善加算が国の支援制度として設けられ、一定の要件を満たした場合、介護職員給与に一律3万7,000円が加算される仕組みとなっております。施設でも在宅でも入浴介護やバイタルチェックなど、同様の業務が展開されています。介護職員の負担軽減や定数配置が望まれています、全国的に介護職が不足しています。本市でも同様の事例になっていますが、高齢化社会継続維持のため、介護事業職の留職を含め担当課に何らかの御指示は今までされたことはございますでしょうか。御回答をよろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 議員御質問の介護職の離職を防ぐ事業といたしまして、労働環境の改善を目的といたしました社会保険労務士を講師とした研修会や生産性向上のための介護技術研修

会、そして介護事業所職員間のネットワーク構築等のための福祉介護職員新人研修会を実施しておりまして、人材確保のための事業と並行して実施をしているところであります。

今後、若い介護事業所職員のアイデア等を具現化した事業を実施して、モチベーションアップにつなげる等、介護人材確保、離職防止のための積極的な事業を展開していくよう、担当課のほうには指示をしているところであります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 担当課のほうとはそれなりにコミュニケーションが取れているというふうに認識をしてよろしゅうございますですね。いいですか。なかなか先ほど申しましたように掘り下げた状況でありますと、本当に人材不足、これが関わってきます。

そして高齢化率がどんどん上がる一方で、そういった担い手不足が生じておりますので、地域によっては、また、事業所によっては外国人の労働者の確保をされておりますが、対馬市としてそのあたりの窓口、人材不足によって外国人労働者等の確保の窓口はあるのか、もしなければ今後その辺りの計画はあるのか、もしございましたらお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 保健部長、桐谷和孝君。

○保健部長（桐谷 和孝君） お答えいたします。

対馬圏域の介護人材育成確保対策地域連絡協議会等を島内の事業所、また対馬高校、ハローワーク、県の長寿社会課、また本市の長寿介護課からなるその協議会を設置をしております、その協議会の中で検討協議をしているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） すいません、突然の外国人労働者の案件、申し訳ございませんでした。今後にも必要になるだろうと思っておりますので、このことにつきましては少し協議の検討課題もひとつお願いしたいと。

人材不足で事業所が停滞するようなことがあってはなりません。介護に限らず様々な事業所もそうでしょうけど、その辺り一極集中して、そして市のほうで窓口として進める必要があるんじゃないでしょうかね。これは提案じゃないです、今後の協議事項というか施策の中で必要不可欠な課題と私は思っておりますので、よろしくお願いいたします。

誰もがいずれお世話になるかもしれない、この介護や医療保険料は生涯納めなければならない制度で、市として特に介護サービスに地域格差がないように有効かつ具体的な取組が必要です。さらに公費を含め第1号及び第2号被保険者の保険料の標準月額が増えないよう、高齢者の健康寿命延伸を含めた有効な施策が求められております。

先日ですか、グラウンドゴルフ大会が盛大に行われたということで、これも一つの手段でござ

います。高齢者の方々、楽しみにしてちょうど中央の豊玉ですか、豊玉まで行かれたみたいですが、最後は疲れたという方もいらっしやったみたいですが。

また、年々増加いたします介護保険料の負担が増えないよう、本年度の市長所信表明では市立診療所を中心に地域包括ケアシステムとして介護保険の支出額が少しでも軽減できるよう、市の担当課を中心に医療保険や介護保険に頼らない健康寿命の延伸に向けた施策が必要というふうにあります、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

いま一度、医療、福祉、介護の在り方を検証され、いつでもどこでも誰でも一律のサービスが受けられるよう、健康づくり推進事業には組織における体制づくりが必要と考えていますので、御検討よろしく願いを申し上げ終わりたいと思います。どうぞひとつよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、伊原徹君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

明日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日は、これで散会とします。お疲れさまでした。

午後 3 時 00 分散会

---